

# 薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！  
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・・



2024年  
4月17日  
第164号



## ジオウ（ハマウツボ科）

主要な生薬の原料となるのに、今まで紹介しなかったのが不思議な植物です。中国原産の多年草。教科書では、生薬ジオウ（地黄）の基原は「アカヤジオウ（ゴマノハグサ科）の根」となっていますが、現在の標準和名と科名は上のタイトルの通りです。根を乾燥させたものから乾地黄（中国では生地黄と呼ぶ）、蒸してから乾燥させたものから熟地黄が作られ、どちらも日本薬局方に適合します。中医学では、前者が清熱涼血、養陰生津、後者が補血滋陰を目的として使い分けられ、日本でも使用される四物湯、八味地黄丸などには熟地黄が配合されますが、日本の漢方製剤では乾地黄を使うことが多く、熟地黄は一部の一般用漢方製剤に配合されるのみです。掘った直後の根は黄色いので、これが植物名の由来ですが、根を乾燥させると黒くなり、名前のイメージはなくなります。

## ヒラドツツジ（ツツジ科）

日本でよく街路樹として栽培されている、ツツジ科の半常緑樹です。名前は、長崎県の平戸で300年以上前から栽培されていたことから。平戸は古くから交易地で、ケラマツツジ、モチツツジ、タイワンヤマツツジなど各種のツツジが栽培中に自然交雑して、花が美しい種が選抜され、増殖したものとされています。ツツジ科にはアザレアという名の園芸品種もありますが、そちらもヒラドツツジと同様に、ベルギーで交雑した選抜されたものになります。

ヒラドツツジを薬用とすることはありませんが、原種の一つであるタイワンヤマツツジの花は、中医学ではトケンカ（杜鵑花）という名の生薬となり、和血、調経、祛風湿を目的に、鼻血、不正性器出血、月経不順、関節痛などに利用されるそうです。